

・概況

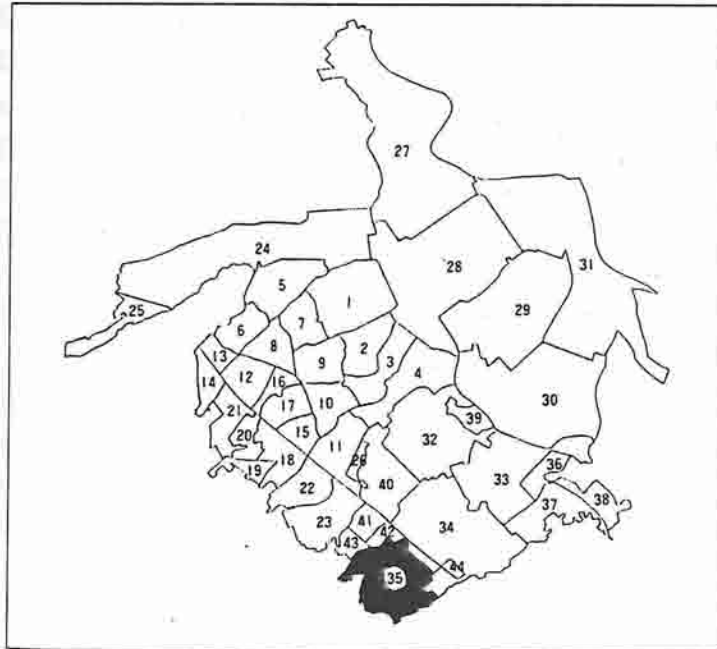
水谷第4町会は、富士見市の南西部に位置し、南東側の柳瀬川に面する低地、水田地帯（谷底平野、氾濫平野）から栗谷津東公園を経て栗谷津公園に、また、中通公園へと延びる狭い低地（谷底平野）、浅い谷（浸食凹地）が見られる。南側（針ヶ谷小学校校庭の南端）には急斜面〔段丘崖（急）〕があり、他の地域は台地（台地段丘）で形成されている。

北東側に東武東上線が、南東側に主要地方道浦和・所沢線（国道254号線）が通じている。町会は、大字水子字六道、字西松原、大字針ヶ谷字北通、字中通、字南通の西側の一部を残し、「地区計画及び地区整備計画区域」に指定され、新しい市街地の整備が促進されている。

水害は、水害履歴から台風に伴う大雨により水田地帯の一部が灌漑用水路からの溢水のため、また、台地の北側の低い所にある畑が道路沿いの下水路からの溢水のため冠水する内水災害が予想される。

地震災害は、大字針ヶ谷字北通地区で出火の危険性がやや高いと予想される。

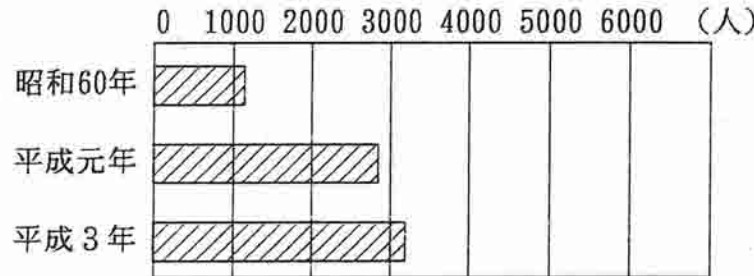
・位置図



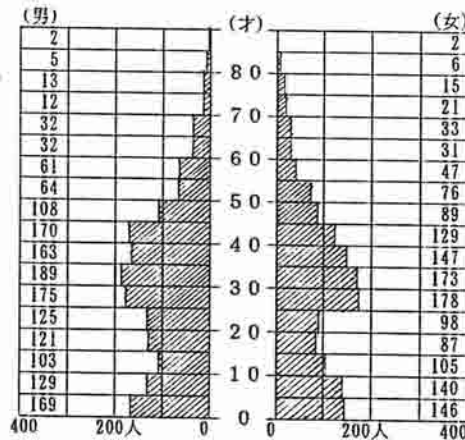
1. 基礎指標

・面積	0.639 km ²
・人口(平成3年10月1日現在) 男	1,691人
女	1,550人
計	3,241人
・人口密度	5,072.0人/km ²
・寝たきり老人数	2人
・ひとり暮らし老人数	7人
・世帯数	1,137世帯

・人口推移

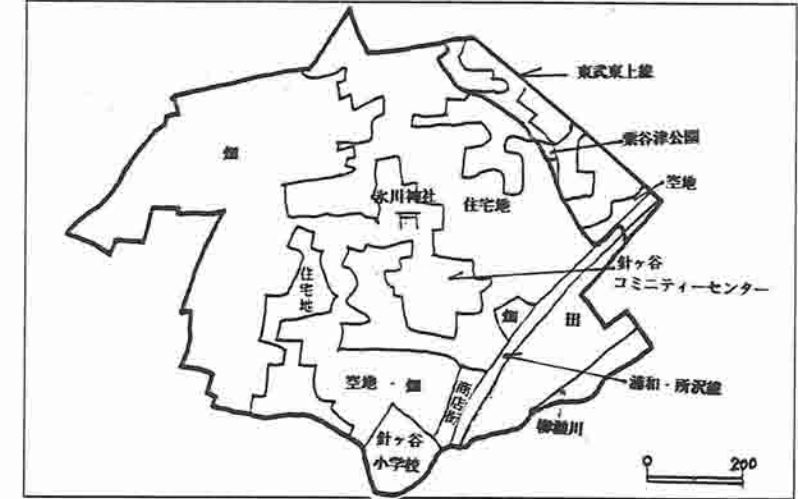


・年齢別人口(平成3年)

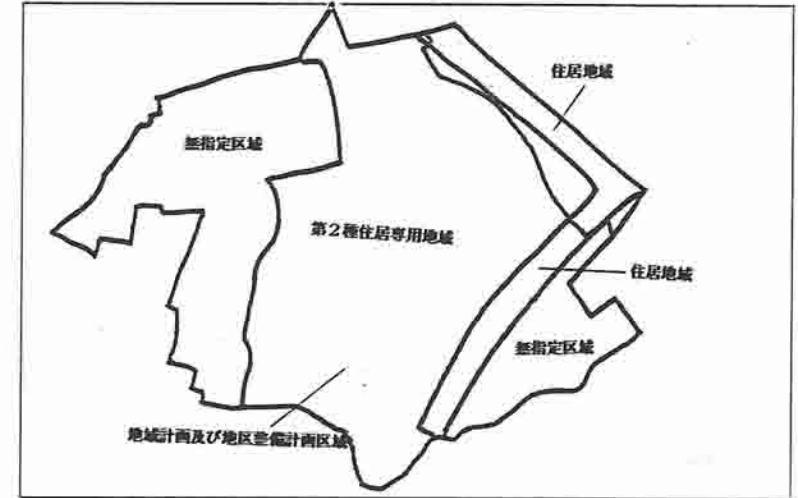


・商住工混在率住居系	90.6%
店舗系	3.1%
工業系	6.3%

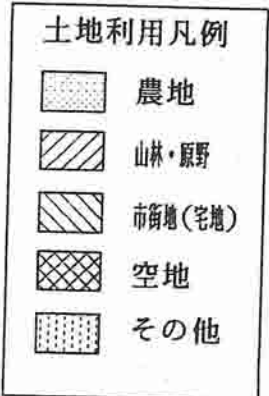
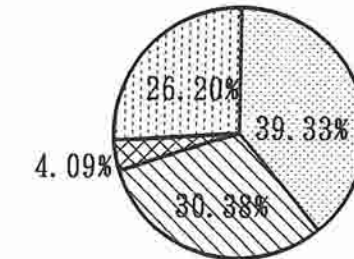
・町会現況図



・用途地域図



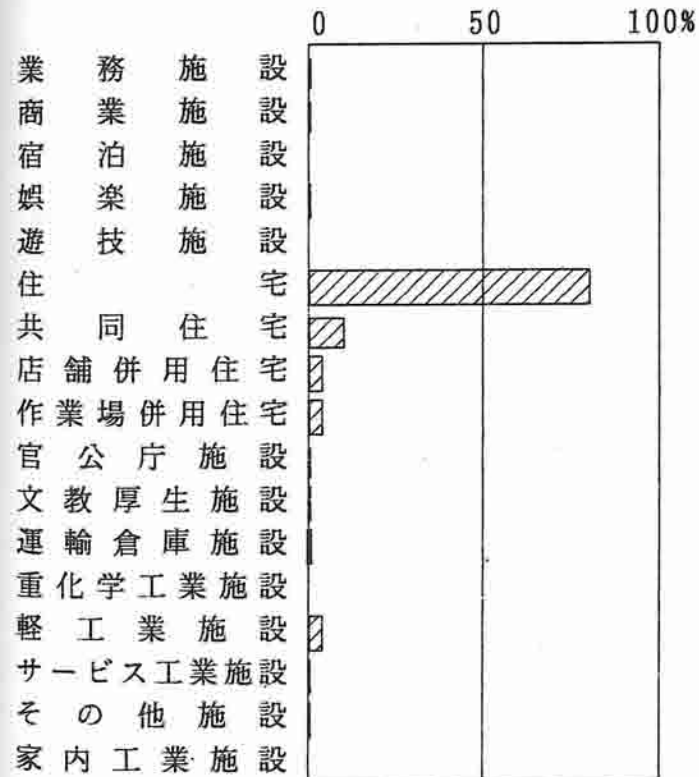
・土地利用現況



2. 建物指標

・建物棟数	767棟	
木造建物	485棟	
非木造建物	282棟	
・建物面積	44,651.60㎡	
木造建物	24,686.00㎡	
非木造建物	19,965.60㎡	
※建物面積は1階の面積		
・住宅率	79.8%	
・木造率	63.3% (485棟)	
・昭和34年以前の木造家屋実棟数	75棟	
・同上率	15.5%	
・建物階層別現況(木造建物)		
1階	224棟	46.1%
2階以上	261棟	53.1%

・建物用途別現況



3. 道路空地指標

・道路率	58本	90.8本/㎢
・幹線道路率	6本	9.4本/㎢
・公共空地面積	32,592.0㎡	
・公共空地率	5.1%	
・1人あたり公共空地	10.1㎡/人	
・公共空地内容(*指定避難所)		
名称	面積	
1. 高校	0㎡	
2. 中学校	0㎡	
3. 針ヶ谷小学校*	18,592.0㎡	
4. 公園	0㎡	
5. 針ヶ谷コミュニティセンター	3,000.0㎡	
6. 南通公園他	11,000.0㎡	

4. 消防指標

所轄消防署	入間東部地区消防組合富士見消防署 応援協定 所沢市、川越地区消防組合、 新座市、志木市各消防本部
・消火栓本数	46本
・1消火栓あたり世帯数	24.7世帯/本
・消防水利貯水施設数	28 (15) か所 ()内は容量40トン以上の施設数
・消防団機械器具置場	富士見市消防団第9分団倉庫

5. 危険物指標

・給油取扱所	0か所
・一般取扱所	1か所
・屋内・屋外(タンク)貯蔵所	0か所
・地下タンク貯蔵所	0か所

6. 既往災害

・家屋浸水被害	床下	床上	道路冠水
昭和57年 9月(詔18号)	5棟	0棟	か所
" 58年 7月(大雨)	8棟	0棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
年 月()	棟	棟	か所
・崖崩れ被害 (年 ~ 年)	0件		
・火災出火件数 (年 ~ 年)	0件		
・1923関東大地震被害			
家屋全壊	0戸		
家屋半壊	0戸		
被害率	0%		

7. 防災基盤施設

消防	0か所	
病院	1か所	みずほ台病院
医 院	0か所	
休日診療所	0か所	
警察	0か所	警察署 派出所
水防施設 その他の施設	0か所	
・自主防災組織(数)	0	
・自主防災組織参加世帯率	0%	
・飲用井戸本数	0本	

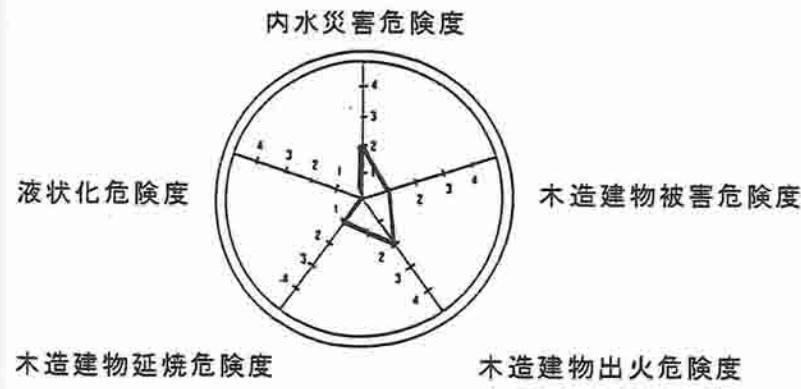
8. 危険度評価

・内水災害危険度	2ランク
・外水災害危険度	0ランク
・土砂災害危険度	0ランク
・木造建物被害危険度	1ランク
・木造建物出火危険度	2ランク
・木造建物延焼危険度	1ランク

地盤	地盤の地震動危険度	1ランク
危険度	液化危険度	0ランク

※ 危険度評価ランク

危険度	無	微	小	中	大
ランク	0	1	2	3	4



9. 地盤条件

地盤は、台地で硬く、低地（大字針ヶ谷6378番地付近、252番地付近）と浅い谷（栗谷津東公園から栗谷津公園付近、大字針ヶ谷262番地から中通公園付近）では比較的軟らかい。台地部で震度5(+)（強震の強い方）、低地で震度6(+)（烈震の強い方）、浅い谷で震度6(-)（烈震の弱い方）の地震が予想される。

10. 問題点の整理

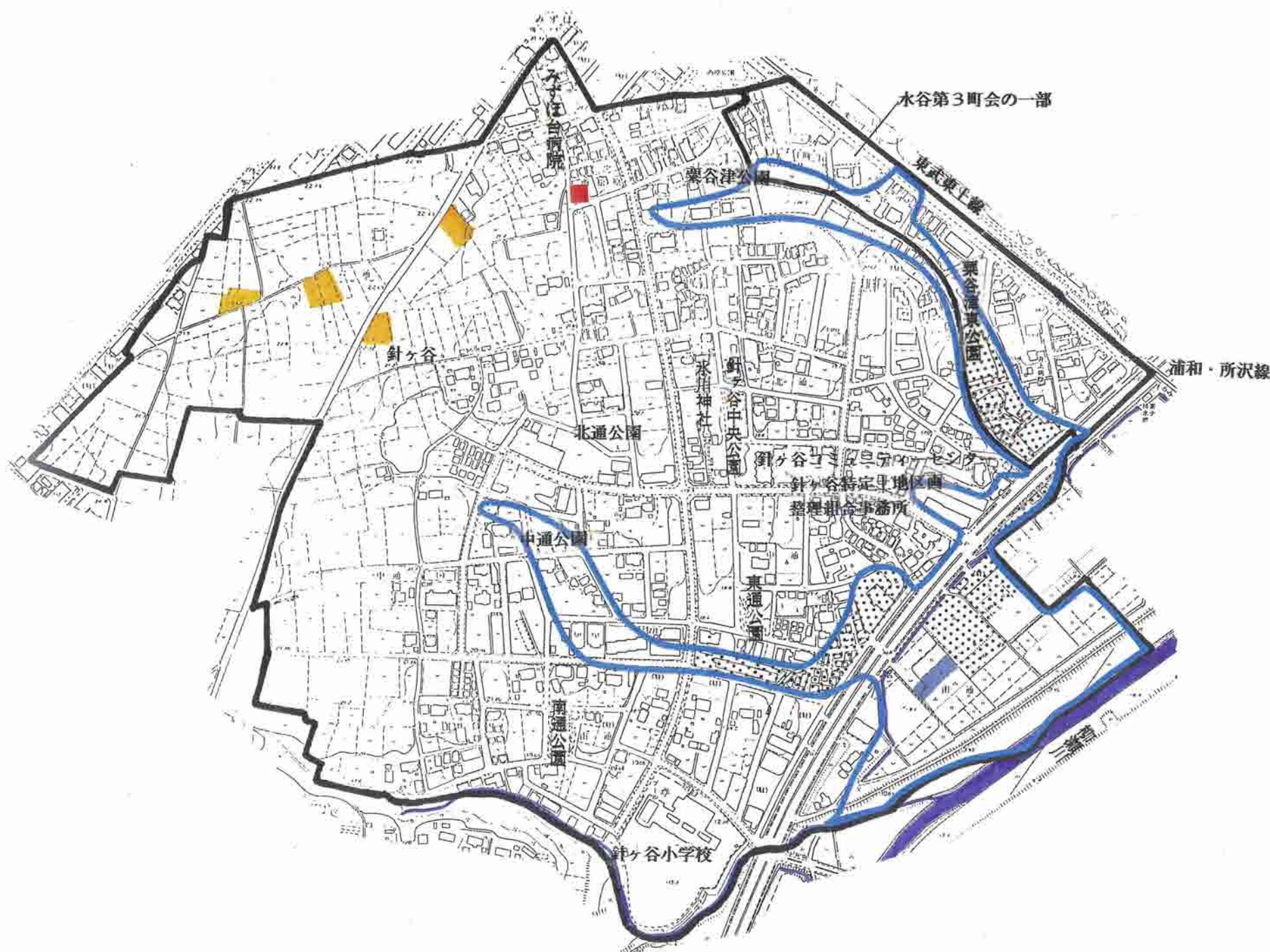
災害発生要因		災害抑止要因	
1. 内水災害	大字水子4311番地付近（大字水子六道）の畑が下水路からの溢水で、また、大字針ヶ谷481番地付近の水田が灌漑用水路からの溢水のため、冠水等の内水災害が予想される。	1. 水防能力	水防施設は無い。
2. 外水災害	低い。	2. 防災組織	無い。
3. 倒壊危険	台地部では地盤条件が良いため、倒壊の危険性は低いと予想される。しかし、低地、浅い谷にある古い木造建物は、倒壊の恐れがややあるので注意を要する。	3. 消防能力	消火栓、消防水利貯水施設は十分と思われる。区画整理区域外の農道を除いて、生活道路は、消防車の消火活動を妨げる恐れはないと思われる。
4. 出火危険	出火の危険性は大字針ヶ谷字北通地区の木造建物密集地でやや高いと予想されるので注意を要する。	4. 防火能力	住宅地、商店街の不燃化が促進されているので防火能力は、やや高い。
5. 延焼危険	不燃領域率は70%以上と見込まれるため、延焼の危険性は低いと予想される。	5. 避難収容力	避難所は、針ヶ谷小学校とし、収容力は、十分と思われる。
6. その他の災害	低地（水田地帯）で液化化の恐れがややあると予想される。		

11. 解決の方向性

水田の灌漑用水路からの溢水の要因は、台風に伴う大雨による柳瀬川、新河岸川の水位が高くなり、内水が排除できなくなることにあるので、新河岸川流域総合治水対策事業(県)を踏まえて、台地の生活道路や幹線道路の側溝から灌漑用水路へ流入する雨水の流出抑制施設などの予防対策を図る事が望ましい。三芳町との境界において、雨による土砂の流出がおこるため、ブロック等による流出防止対策が求められる。避難可能な道路は、道路沿いにあるブロック塀の倒壊、自動販売機の転倒のため、避難道路が狭隘化する危険性がある。したがって、これら倒壊物、転倒物による避難道路の狭隘化を防ぐ予防対策指導が望まれる。

※ 想定震度 5(+) (強震(強))

防災現況図A (災害発生要因)

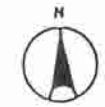


凡 例

- 給油取扱所
- 一般取扱所
- ⚠ 危険物屋内タンク貯蔵所
- ⚠ 危険物屋外タンク貯蔵所
- ⚠ 危険物地下タンク貯蔵所
- ▲ LPG 充填所
- △ 橋 梁
- ▽ 横断歩道橋
- △ 立体交差
- 木造家屋密集地域
- 河川・水面
- ⚠ 急傾斜地崩壊危険区域
- 盛土
- 浅い谷・低地(谷底平野)

既往浸水域(平成3年台風18号)

- 田の浸水地域
- 田の被害区域
- 畑の被害区域
- 床上浸水地域
- 床下浸水地域



0 50 100 200 300 400 500m

防災現況図B (災害抑止要因)

